

次の文章は、「北の方」が、継子である女君を、強引に老医師「典葉」と結婚させようとしている場面である。これを読み、あとの問に答えよ。(30点)

1 典葉、渡れば、(北の方が)「こちいませ」と呼び給へば、ふと寄りたり。「ここに、胸病み給ふめり。かいさぐり、葉なども a 参らせ b 給へ」とて、やがて預けて立ちぬれば、「医師なり。1 御病もふとやめ奉りてむ。今宵よりは一向にあひ頼み給へ」とて、胸かいさぐりて手触るれば、女君おどろおどろしう泣き惑へど、言ひ制すべき人もなし。わびしきままに、思ひて泣く泣く、「いと頼もしきことなれど、ただ今さらに物なむおぼえぬ」といらふれば、「さや。などてか c おほすらむ。今は御代りに翁こそ病まめ」とて、抱へてをり。北の方は、典葉あり、と思ひ頼みて、例のやうに錠などもさし固めで寝にけり。

* あこぎ、2 典葉や入りぬらむ、と惑ひきて見るに、遣戸、細目にあきたり。引きあけて入りたれば、典葉かがまりをり。入りにけり、と心地もなく「今日御 * 忌日」と申しつるものを、心憂くも入り給ひにけるかな」と言へば、「何か。近々しくもあらばこそあらめ、『御胸まじなへ』と * 上の預け奉り給ひつなり」とて、まだ装束も解かでをり。女君はいといたう悩み給ふに添へて、泣き給ふこと限りなし。あこぎ、かかるはいかなるべきにかと思ひて、心細く悲し。「御

* 焼石あて d させ給はむとや」と聞こゆれば、「よかなり」と e のたまへば、あこぎ、典葉に「3 ぬしをこそ今は頼み聞こえめ。御焼石求めて奉り給へ。皆人も寝静まりて、あこぎが言はむに、よも取らせじ。これにてこそ 4 志ありなし、見えはじめ給はめ」と言へば、典葉うち笑ひて、「さななり。残りの齡少なくとも、5 一筋に頼み給はば、仕うまつらむ。岩山をもと思へば、まして焼石はいとやすし。思ひにさし焼きてむ」と言へば、「同じくはとく」と責められてぞ、辞げ

15 むやば。入りたちたるやうなれば、いとやすし。志、情けを見えむとて、石求めむとて立ちぬ。〔落窪物語〕より

注

*あこぎ〓女君に仕える侍女。 *忌日〓いろいろなことを慎まねばならない日。 *上〓北の方。 *焼石〓焼いた石を綿や布で包んで懐に入れ、身体を温めるもの。

問一

傍線 a ～ e の敬語について、(i) 誰の、(ii) 誰に対する敬意か、それぞれ次の中から一つずつ選び、記号を記せ
(同じ記号を何度用いてもよい)。(10点)

ア北の方 イ女君 ウあこぎ 工典薬 才作者 力読み手

問二

傍線 1・5 を口語訳せよ。(8点)

問三

傍線 2 について、次の (i) (ii) に答えよ。

(i) 傍線 2 の事態を受けて「あこぎ」はどのような対応をしたか。最適なものを次の中から選び、記号を記せ。

(3点)

アやむを得ないので、そのまま帰ってしまった。 イ女君を助けてもらうため、人を呼びに行った。

ウ典薬の行為に対し、非難の気持ちを表した。 工典薬に出ていってもらうため、大声を上げた。

オ大泣きして、典薬を困らせようとした。

(ii) 「典薬」は、(i) のような「あこぎ」の対応に対し、どのような行動に出たか。最適なものを次の中から選び、

記号を記せ。

(3点)

ア 自分の立場を主張して、そのままいつづけた。

イ 北の方を呼んで、来てもらおうとした。

ウ 老人であることを理由に同情を買おうとした。

エ すぐに部屋から出て行ってしまった。

オ 何を言われても無視していた。

問四

傍線 3 のように「あこぎ」が言ったのは何のためか。最適なものを次の中から選び、記号を記せ。

(3点)

ア 典薬に対する自分の慕情を知ってもらうため。

イ 典薬に自分の非力さを理解してもらうため。

ウ 典薬になんとか女君の立場をわかってもらうため。

エ 典薬をだまして、部屋から出そうとしたため。

オ 典薬が焼石について詳しい知識を持っていたため。

問五

傍線 4 「志」とは、ここでは具体的に何を指すか、簡潔に記せ。

(3点)